



IFCと大自青が初の合同例会

それぞれの視点から 将来展望を語り合う

自動車業界の未来を共に考えよう。近畿地区の輸入車販売店などで組織するIFC（インポートカー・フューチャー・クラブ、氏田耕吉会長）と整備業界の若手経営者らが集まる大阪自動車青年会議所（大自青、柏原隆宏会長）は9日、大阪市内のホテルで初めての合同例会を開催した。写真。世代や環境の異なる両会のメンバーが集結し、それぞれの視点から自動車業界で生き残るための将来展望について熱く語りあ

った。

IFCメンバーには大自青のOBも多いことから今回の合同例会が実現した。進行役としてコーチング・ウエスト・ラボの丸谷公二氏を招き、「未来への挑戦」をテーマにグループディスカッションを行った。メンバーそれぞれが抱える課題や10年後目指すべき姿などについて本音で語り合い、例会後の懇親会でさらに親睦を深めた。

IFCの氏田会長は冒頭の挨拶で「今から35年前、縁あって大自青に入会させてもらった。その後、もっと勉強したいという思いから21年前に

チャーターメンバーとしてIFCに参加することとなった。いずれも思い入れの深い両会が集まり、今回初めて合同例会を開くことができている。40代を中心にして若いメンバーが集まっているので経験はまだ浅いが、今回の合同例会を機に経験豊富なメンバーが揃うIFCとうまく融合し、今後につなげることができれば」と期待を述べた。

一方、大自青の柏原会長は「暗い話が多い整備業界の中で、大自青は『業界を何とかしたい』という勢いを持っている。40代を中心にして若いメンバーが集まっているので経験はまだ浅いが、今回の合同例会を機に経験豊富なメンバーが揃うIFCとうまく融合し、今後につなげることができれば」と期待を述べた。